

フランス語で数字の言い方をマスターしよう(1)



海外旅行をしたり海外で生活する時、どうしても避けて通れないのが、お金の計算や日時・人数の確認などに必要な「数字」です。英語ができればなんとかなるかもしれませんが、できれば現地の言葉を使ってみたいですね。

今回は、数え方がとても独特な、フランス語の数字の言い方をご紹介します。

まずは1～69までの数え方を確認しよう

フランス国内で使われている数の数え方は、1～69までと70～99までで大きく異なります。1～69までは普通に数字をいうのに対して、70～99は足し算や掛け算をしなければならず、フランス

語学習を始めたばかりの人にとって、最初の大きな壁とも言えます。

では、まず1～69までの数え方を確認しましょう。

1～10

un(e) / deux / trois / quatre / cinq / six / sept / huit / neuf / dix

バレエでは「アン、ドゥ、トロワ...」とフランス語で数えることが一般的なため、耳にしたことがある人も多いと思います。

通常、ただ数を数える時、1は「アン(œ)」と言いますが、後ろに時間(heure)や分(minute)などの女性名詞がくると「ユヌ(yn)」と女性形になるのがポイントです。

11～16

onze / douze / treize / quatorze / quinze / seize

11～16までは、日本語の様ないわゆる「じゅう」「いくつ」という言い方ではなく、一つの単語で言い表します。

語尾が全て「ze」(発音はズ)になっているのが特徴ですね。14(quatorze)の発音は「キャートルズ」と「トー」でのばし、4(quatre)の発音「キャ(ー)トゥル」としっかりと区別しましょう。

17、18、19

dix-sept / dix-huit / dix-neuf

これら3つは、日本語の様に「じゅう」「いくつ」と表現します。

書くときには dix と一の位の間に「-」(trait d'union)が必要ですので、忘れないようにしましょう。10の発音は「ディス(dis)」ですが、17では「ディ」、18と19では「ディズ」と発音が変わるので、注意が必要です。

20、21、22、23 ... 29

vingt / vingt **et** un / vingt-deux / vingt-trois ... vingt-neuf

20はこのように書いて「ヴァン (v)」と発音します。ワインの vin とまったく同じ発音です。

20～70までは、一の位が1になった時(21、31、41...)は、接続詞の et が入り、「20と1」「30と1」と表現し、一の位が2～9の時は「-」を用いますので、覚えておきましょう。

また、21は「ヴァンテアン (v teœ)」、22～29までは「ヴァントゥ (v t) ...」と軽く t を発音するのもポイントです(22以降に関しては、まったく t を発音しない人もいますが、基本的には発音します)。

30、40、50、60

trente / quar**ante** / cinquante / soixante

30～60までは、語尾に「オントゥ (t) 」という発音が付くのが特徴です。書くときには、30は -ente、それ以外は -ante とつづりが異なるので、注意しましょう。

70～99までは計算式！

ここまでの数え方がマスターできたら、70以降はそれらを組み合わせて計算式で表します。同じフランス語圏でも、ベルギーやスイスでは使われない、独特の表現です。

70、71、72 ... 79

soixante-dix / soixante **et** onze / soixante-douze ... soixante-dix-neuf

さて、何と何が組み合わさっているか、わかりますか？

そうですね、60と言っ

た後に、先ほどの10～19までを付け加えています。70は「60+10」、71は「60+11」

とそのつど計算しなければいけない為、算数が得意になりそうです。

ちなみに、スイスやベルギーには「septante」という言葉があります。

80、81、82 ... 89

quatre-vingts / quatre-**vingt**-un / quatre-vingt-deux ... quatre-vingt-neuf

先ほどが60+10だったので、今度は60+20かと思いきや、全然ちがいますよね。

そうです、80は「 4×20 」、「 $4 \times 20 + 1$ 」と、掛け算と足し算をしなければいけません。

さらに注意が必要なのは、80に使われている **vingts**

は複数形の **s** がついているのに対し

、一の位に端数がつくと **vingt**

と単数形で書かなければいけません。これは、200、300の時に使われる **cent**

も同じルールですので、覚えておきましょう。

81には接続詞の **et** は付かず、リエゾンもせず「キャトゥル ヴァン

アン (katr v œ)」と発音します。そして、80~99に使われる **vingt**

は **t** をまったく発音しないのが特徴です。

スイスでは「**huitante**」、ベルギーでは「**octante**」か「**quatre-**

vingts」（フランスと同じ）を使います…。

90、91、92 ... 99

quatre-vingt-dix / quatre-vingt-onze / quatre-vingt-douze ... quatre-vingt-neuf

90以降は、80の数え方と同じで、 $4 \times 20 + 10$ 、 $4 \times 20 + 1$ を掛け算と足し算と組み合わせます。

スイスとベルギーは「**nonante**」という言葉を使います。

最後に

足し算や掛け算を使わなければいけないので、とてもややこしいフランス語の数の数え方。慣れるまでには大変ですが、パズルをしている感覚で楽しみながら学習すると、習得も苦ではなくなるはず。

では、最後に問題です。

フランスでは電話番号は二ケタずつ言いますので、下の数字を電話番号だと思って言ってみましょう。

12 34 56 78 90 / 98 76 54 32 10

次回は、100以上の大きな数の数え方をご紹介します。

執筆 Daisuke

オンラインフランス語学校
ENSEMBLE EN FRANÇAIS
アンサンブルアンフランセ

オンラインフランス語学校アンサンブルアンフランセは、プロの講師によるマンツーマンのスカイプレッスンが1回1500円～受講できます。いつでもどこでも手軽に受講できる利便性と生徒一人一人にカスタマイズされた質の高いレッスンが好評です。

